

「栄章受章を祝う会」

令和2年から令和4年に、つぎのみなさまが永年の陸上競技界へのご尽力により、栄章を受章されました。受章のみなさまのご功績を讃え、令和5年11月25日（土）に、横浜ロイヤルパークホテル「鳳翔の間」において、祝賀の宴が挙行されました。新型コロナウイルスの5類移行に伴い、4年ぶりに受章の栄誉をお祝いいたしました。

＜栄章受章者＞

橘川 眞佐志 様	令和2年	旭日双光章
	令和4年	日本陸上競技連盟 功労章
皆川 敏明 様	令和2年	日本陸上競技連盟 秩父宮章
吉田 秀志 様	令和2年	生涯スポーツ功労者表彰
鍵和田 実 様	令和4年	日本陸上競技連盟 秩父宮章



橘川 眞佐志様



皆川 敏明様



吉田 秀志様



鍵和田 実様



＜司会進行＞
金澤専務理事



＜発起人代表＞
田中川崎陸協会長



＜ご祝辞＞
河野太郎名誉会長代理



浅尾鎌倉陸協会長



＜乾杯のご発声＞
永井日本学生連合副会長



有吉関東学生連盟会長



＜閉会＞
齋藤監事



(一財)神奈川陸上競技協会 栄章受章を祝う会

第42回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会 5位入賞

令和6年1月14日(日)12時30分スタートで「第42回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会」が京都市西京極陸上競技場付設マラソンコースの9区間42.195kmで行われ神奈川県チームは2時間17分34秒で総合5位に入賞しました。

区間	距離	氏名	所属	区間記録	区間順位	通算記録	通過順位
1区	6km	信 櫻 空	パナソニック	19分37秒	14位	19分37秒	14位
2区	4km	近 藤 希 美	東海大相模高校3年	12分51秒	9位	32分28秒	7位
3区	3km	井 上 穂 奏	山内中学校3年	9分36秒	3位	42分02秒	3位
4区	4km	西 山 未 奈 美	三井住友海上	13分08秒	6位	55分12秒	3位
5区	4.1075km	勝 呂 遥 香	白鷺女子高校2年	13分26秒	12位	1時間08分38秒	5位
6区	4.0875km	金 子 陽 向	城西大学2年	13分13秒	3位	1時間21分51秒	4位
7区	4km	古 田 島 彩	白鷺女子高校3年	12分54秒	9位	1時間34分45秒	4位
8区	3km	村 松 帆 乃 美	上溝中学校2年	10秒04秒	5位	1時間44分49秒	3位
9区	10km	出 水 田 眞 紀	第一生命グループ	32分45秒	11位	2時間17分34秒	5位

第29回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

令和6年1月21日(日)12時30分スタートで「第29回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会」が広島市広島平和記念公園前をスタート・フィニッシュとする7区間48.0kmで行われ神奈川県チームは2時間22分41秒で総合23位という成績でした。

区間	距離	氏名	所属	区間記録	区間順位	通算記録	通過順位
1区	7km	中 川 晴 希	藤沢翔陵高校3年	19分48秒	8位	19分48秒	8位
2区	3km	佐 藤 蒼 斗	田奈中学校3年	8分45秒	15位	28分33秒	7位
3区	8.5km	内 田 隼 太	トヨタ自動車	24分28秒	27位	53分01秒	10位
4区	5km	樋 村 銀 河	荏田高校3年	15分06秒	27位	1時間08分07秒	13位
5区	8.5km	小 島 宗 大	東海大相模高校2年	27分12秒	42位	1時間35分19秒	27位
6区	3km	小 池 大 晴	鶴沼中学校3年	9分05秒	19位	1時間44分24秒	25位
7区	13km	橋 本 龍 一	プレス工業	38分17秒	14位	2時間22分41秒	23位

全日本中学校陸上競技選手権大会で2名のチャンピオンが誕生

「令和5年度 第50回全日本中学校陸上競技選手権大会」は、令和5年8月22日~25日に愛媛県総合運動公園陸上競技場にて行われ、神奈川県から2名のチャンピオンが誕生しました。

女子走高跳 鴨田 るな(相模原市立旭中学校3年)



一言で言えば「ホッとした」というのが本音です。この気持ちは自分でも驚きました。この1年間、全中優勝を目指して練習してきましたし、連覇するという目標に向かってぶれることなく取り組むことができました。

中学2年生の時に全中で優勝することが出来てからは、様々な方々に応援してもらえました。全中前までは好調に記録を伸ばすことも出来ていたのですが、さらに応援に答えなければ・・・勝手にプレッシャーに感じてしまっていたのが大会当日までの気持ちでした。

大会当日は大雨でした。前年の大会も小雨で、今年は大雨。これが良かったのかもしれませんが、気持ちが吹っ切れました。もうやるしかないなと。大会直前まで調子も良くなかったのですが、せめて応援してくれている家族や、学校の先生にはやり切る姿をお見せしたかったです。だから結果が出てホッとしたのだと思います。高校ではどんな時でも力を発揮できる強い選手になるため練習していきます。

女子四種競技 江口 美玲(横浜市立大綱中学校3年)

私が「四種競技で全国制覇する」と心に決めたのは、2年生の10月頃でした。始めの頃は「自分はどこまでいけるのか」ワクワクしていました。しかし練習を続けるにつれ、プレッシャーと顧問の先生との意見のすれ違いで、楽しさよりも辛さの方が大きくなりました。しかし、「全国制覇しメダルを獲りたい」という気持ちは消えず、日々つらい練習を乗り越えました。そして迎えた本番。1日目のハードルと高跳びでは、練習の成果を思うように発揮できず、1日目を終えて5位と悔しい結果でした。気持ちを切り替え、翌日の砲丸投では自己ベストを更新し、一気に上位にあがることができました。そして200mでも満足のいく走りができ、夢だった「全国制覇」を成し遂げることができました。私がここまで来られたのは、愛を持って育ててくれた顧問の先生や学校の先生方、私を支えてくれた家族・陸上競技部の仲間のおかげです。また支えてくれた地域の方や陸上競技協会の方々に感謝の心を忘れず、高校でも活躍していきます。



特別国民体育大会(鹿児島大会) 天皇杯9位 皇后杯15位

2023 (令和5) 年 10月13日 (金) ~ 17日 (火)

鹿児島県・白波スタジアム (鹿児島県立鴨池陸上競技場)

神奈川県選手団 天皇杯 78.5点 第9位 皇后杯 36.5点 第15位

順位	男女総合 (天皇杯)		順位	女子総合 (皇后杯)	
第1位	福岡	124点	第1位	大阪	64点
第2位	京都	117点	第2位	福岡	62.5点
第3位	大阪	103.5点	第3位	京都	60点
第4位	兵庫	103点	第4位	大分	59.5点
第5位	東京	99.5点	第5位	兵庫	54点
第6位	愛知	91.75点	第6位	愛知	53.75点
第7位	千葉	87点	第7位	鹿児島	51.75点
第8位	鹿児島	80.75点	第8位	東京	47.5点

○神奈川県選手団 入賞者一覧表

種目	選手名	記録	順位
成年男子 400mH	陰山彩太 日本大学大学院1年	50秒21	2位
成年男子 三段跳	山下祐樹 富士防	16m38(+2.0)	1位
成年男子 砲丸投	山田暉斗 法政大学1年	17m43	4位
少年男子A 100m	江崎優斗 相洋高校3年	10秒58(+1.1)	8位
少年男子A 300mH	菊田響生 法政大学第二高校2年	36秒03(NGR)	5位
少年男子A ハンマー投	古谷聖人 小田原城北工業高校3年	60m86	3位
少年男子共通 5000mW	守屋海斗 保土ヶ谷高校3年	20分59秒76	4位
成年女子 砲丸投	大迫晴香 染めQ	14m18	8位
少年女子A 100m	井上瑞葵 東海大相模高校3年	11秒81(+1.4)	3位
少年女子A 800m	田村遥香 法政大学第二高校2年	2分12秒79	8位
少年女子A 3000m	近藤希美 東海大相模高校3年	9分07秒59 (県高校新)	4位
少年女子A やり投	吉田さくら 相模原弥栄高校2年	46m17	8位
少年女子B 100m	望月美希 横浜市立茅ヶ崎中学校3年	12秒03(+1.7)	4位
少年女子共通 走高跳	鴨田るな 相模原市立旭中学校3年	1m68	3位
成年少年女子共通 4×100mR	望月美希 横浜市立茅ヶ崎中学校3年	46秒69	7位
	佐藤瑠歩 法政大学3年		
	井上瑞葵 東海大相模高校3年		
	石川優 青山学院大学3年		
	加藤美都 東海大相模高校1年		
成年少年男女共通 4×400mR	陰山彩太 日本大学大学院1年	3分21秒81 (NGR)	3位
	金子ひとみ 青山学院大学4年		
	瀬田陽菜 東海大相模高校3年		
	菊田響生 法政大学第二高校2年		

入賞者の皆さんからコメントをいただきました

成年男子 400 m H、男女共通 4 × 400 m R 陰山 彩太 (日本大学大学院 1年)

成年男子代表、日本大学大学院の陰山彩太です。

この度、鹿児島特別国体にて成年男子 400mハードル2位、成年少年男女混合 4 × 400mリレー3位という形で幕を閉じました。各種目で次々と有望株が現れる激戦の神奈川県で、今回代表として選出して頂いてから今回の結果に至るまで、神奈川県陸上競技協会の吉田会長をはじめ、数多くのスタッフの方々の支援のもと出走することができました。貴重な経験をさせていただきましたこと心より感謝申し上げます。

本大会を振り返ると、結果として、出場した両種目での入賞を果たすことができましたと言えます。その背景には、「どうしても神奈川県に点数を入れたい」その想いが原動力になりました。毎年各世代トップクラスのメンバーで構成されるチーム神奈川は、強い故高みを目指すチームでもあります。しかし、それらをプレッシャーに感じている選手は少ないと感じます。その理由は、結果ではなく、まずは競技することを楽しもうと促して下さるスタッフの先生方や、どんな結果であれ熱い言葉を交わし合えるメンバーがいるからだと感じます。このチームで競技ができたこと、そして結果で恩返しできたことは今後の自分の陸上人生において大きくプラスになりました。これからも神奈川県に貢献できる選手でいれるよう精進して参りますのでご声援よろしくお願いいたします。



成年男子砲丸投 山田 暉斗 (法政大学1年)

成年男子の砲丸投に出場させて頂きました、山田暉斗です。

今回初めて神奈川県代表として国体に出場することができ、非常に貴重な経験をさせて頂きました。

結果は17m43cmで四位という悔しい結果で終わってしまいました。

良い感じに練習も詰めていて自己ベストを更新できる状態で今大会に臨んだのですが、更新できずに終わってしまいました。前半でいい記録が残せず試合展開が悪かったことが反省点です。

ですが、今回の特別国民大会が一般の選手も含めての初めての全国大会だったので、このような大会で入賞出来たことは今後の試合を見据えてよい経験になったと思います。

神奈川選手団としてチーム一丸となって試合に出場することができて、とても楽しく試合に臨むことができました。今大会の悔しさを糧に、次回の佐賀国体でも神奈川県代表に選んで頂き、今大会より更に良い結果を残せるよう今後も引き続き練習を頑張りたいと思います。

これからも応援よろしくをお願いします。

少年男子A 100 m 江崎 優斗 (相洋高校3年)

私は、特別国民体育大会に出場させていただき、少年男子A100mにおいて8位に入賞しました。

試合としては、予選から決勝まで三本走らせていただきました。準決勝の試合を僅差で勝つことができ、決勝のレースで走る権利を獲得することができたのですが、インターハイの時に敗北した選手や初めて対戦する選手達に勝つことができませんでした。インターハイも7位で今大会も8位という結果で悔しいレースが続き、自己ベスト更新もできませんでした。しかし今大会は、母校で学んだことを糧に場の雰囲気にも吞まれずに試合に臨むことができました。

今回は少年男子として出場させていただきましたが、次回からは成年男子の枠組みとなるため、大学生・社会人の方々より勝るタイムを出して、次回も選んでいただけるように日々努力を重ねていきたいと思っています。

少年男子300 m H、男女共通4×400 m R 菊田 響生 (法政大学第二高校2年)

インターハイを終えてから中々調子が上がらず、不安の残る中で今大会を迎えました。全国の舞台上で個人2種目、リレー1種目に出場することは初めてで、緊張もありましたが、「アグレッシブチャレンジ」というチーム神奈川の目標を知った時「消極的にならず、思いっきり自分らしく走ろう」という思いで、一つ一つのレースを大切に、5日間全力を尽くすことができました。300mは優勝を狙っていたので、自分の走りができず、悔しさが残るレースとなりましたが、その悔しさを300mHとマイルリレーにぶつけることができ、結果は自分の納得のいくものではありませんでしたが、全国の舞台上で2種目で入賞できたことは、得るものは多く、その中にも未熟さを感じたりと、色々なことを学ぶことができた国体となりました。素晴らしい先輩方やスタッフ、コーチの方々に、応援や支援、サポートしていただいたお陰で、チーム神奈川の一員として神奈川に貢献することができ、自分の陸上人生にとって最高の経験ができ、幸せでした。この大会で学んだこと、感じたことを自分の中でもっと深めていき、来シーズンに活かしていきたいと思っています。この大会に携わってくださった、神奈川県の方々に感謝します。ありがとうございました。

少年男子Aハンマー投 古谷聖人 (小田原城北工業高校3年)

今シーズンの記録が認められ10月鹿児島で行われた国民体育大会にハンマー投の神奈川県代表選手に選ばれることができました。嬉しさもありましたがプレッシャーもかなりありました。遠征も長期間にわたるので不安を感じましたが、神奈川選手団の監督、コーチ、スタッフの方々に本当に一生懸命サポートをしていただき、また、選手のチームワークもよく不安なく試合に臨むことができました。当日は、私としては自己ベストが出ず、残念な面もありましたが、大きな大会での3位入賞で神奈川に貢献できたことに大満足です。大会を通じ投擲の仲間と緊張感のある中いろいろなか場面で話もでき、神奈川ワンチームで楽しい日を過ごせたことに感謝しております。

私は高校卒業後も競技を続ける意向で、もう一度神奈川チームの一員となれることを一つの目標とし、さらに努力していきたいと思っています。本当に楽しい国体でした。

少年男子共通5000 m W 守屋 海斗 (保土ヶ谷高校3年)

今回の国体は去年に引き続き2回目の出場となりました。去年の国体は実力不足だったこともあり、レースに対応することができず悔しい思いをしました。なので2回目の国体では必ずリベンジするという思いで、レースに臨みました。序盤は先頭集団でレースを進めていましたが、中盤で失速してしまい集団から離れてしまいました。終盤、後ろから他の選手達が追い上げてくるのに対応し、最後の最後まで力を振り絞りました。結果4位入賞で去年のリベンジを果たすことができました。しかし3位以内を目標としていたので、嬉しい反面悔しさもありました。また優勝した選手と自分ではまだ大きな壁があるように感じました。なのでこの鹿児島国体を機に更に強い選手になれるように、日々の練習に一生懸命取り組んでいきたいと思っています。そしてもう一度、神奈川県代表に選ばれた際には成長した姿を見せられるようなレースをしたいと思っています。

成年女子砲丸投 大迫 晴香 (染めQ)

燃ゆるかごしま国体において砲丸投げ8位入賞でした。

私自身この国体にかかる想いが強く、試合ではとにかく自分のやってきたことを信じて投げようと気合を入れて試合に挑みました。

今回は神奈川投擲の人数が5人と多く、先生方と選手全員で戦いにいき、チーム力を感じながら楽しく試合をすることができました。投擲だけでなく、チーム神奈川の活躍や、応援サポートにより気持ちよく試合に臨むことができたことも点数に繋がったと思っています。

結果としてヒヤヒヤする試合をしてしまい、良いものとは言えませんが、周りの方の支えによって入賞出来たことを嬉しく思います。

まだまだ他の選手と比べると力も技術もなく、伸び代だらけだと感じています。

来年は更に上の順位を取れますよう強くなってまた戻ってきます！ありがとうございました。



少年女子A 100 m、4 × 100 m R 井上 瑞葵（東海大相模高校3年）

少年女子A100mと共通400mRに出場し、3位と7位に入賞することができました。2023シーズンは勝ちきれない弱さというものが目立ち、インターハイの個人種目でも悔しい結果で終わってしまった分、シーズン最後に高校最後のこの国体にかかる想いは強く、慎重に調整を行った結果、個人で上位入賞そして自己ベストを更新することができました。いつもとは異なる環境で伸び伸びと試合に挑めたのはチーム神奈川の方々のおかげだと感じています。試合前日に周りの人が記録を出してプレッシャーを感じていた私に「大丈夫だから自信持って」と神奈川の方々声がかけてくれて何気なく言った言葉かもしれませんが私はその言葉のおかげで安心して試合に挑むことができました。走り終わって結果が出るまで順位はわからなかったのですが、自分の名前が3位に出たときのあの光景やあの感情は忘れません。4月から環境が変わり難しいシーズンになると思うのですがこのチーム神奈川にまた戻って来られるように日々精進していきます。本気で目指していたけど叶えられなかった日本一。大学では必ず叶えます。応援サポート等ありがとうございました



少年女子A 800 m 田村 遥香（法政大学第二高校2年）

今大会は「aggressive challenge」・「参加できることに感謝し、挑戦できることに幸せを感じる」というチーム神奈川の目標の元、「aggressiveなレースをする」ということをとても意識して走りました。それが身を結び800m決勝で唯一の2年生として走ることができました。速いペースで、最後は集団から離される展開になってしまい、自己ベストとはほど遠いタイムでしたが、途中で走ることができ、次に繋がる良い経験ができたと思いました。チームを盛り上げてくださった先輩方、手厚いサポートをしてくださった先生方に恩返しのできたのではないかと思います。来年以降も選んでいただけるように「かすかでも確実に前進」していきたいです。チーム神奈川の一員になれてとても幸せでした。この経験を来シーズンに活かしていきたいです。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



少年女子A 3000 m 近藤 希美（東海大相模高校3年）

鹿児島国体少年A3000mに出場させていただき、4位に入賞することができました。高校2年次は、インターハイで思うような結果を出すことができず、選出となりませんでした。そのため、栃木国体の結果を見て自分も神奈川県を背負って走りたかったと思いました。それからは、国体の選手として選出して頂けるように、インターハイで結果を出そうという想いを抱きながら練習を重ねてきました。それが実り、選手として鹿児島国体に行くことができました。目標は、留学生に競り勝ち優勝すること。そして、8分台で走り神奈川県高校記録を更新することでした。最初からハイペースでしたが、自分の理想通り展開でした。しかし、先頭に付いていけなくなってしまい、4位という結果になりました。インターハイと国体の日本人1位2冠を獲得することができず悔しかったです。それでも、神奈川県高校記録を更新でき、神奈川県の記録に名を刻むことができたことは嬉しく思います。今後も神奈川県を背負って感動を与えられるような走りができるよう精進したいと思います。

少年女子A やり投 吉田 さくら（相模原弥栄高校2年）

人生2回目の全国大会。

夏のインターハイでは思うような結果にはならず、3年生と強さの壁を感じた試合になりました。そんな悔しい思いを晴らす場として、国体という大舞台に自分が立てるということになり、選考されてからの約2ヶ月間、3年生、そして1番は夏の自分に勝つために練習をこなしってきました。神奈川県代表として、背中にかもめを背負って戦うプレッシャーは今までは感じたことの無いものでした。

そんな中、「8位」という、自分にとっては全国初入賞、陸上人生において、かなり刺激のあるいい経験になった背景にはたくさんの人のサポート、協力がありました。

寄り添ってくれた先生、そして応援してくれた仲間。みんなで同じ目標に向かって戦い、みんなで応援し、称え、そんな環境の中だったからこそ、自分は結果を残すことが出来ました。

1人ではなすことの出来ない、チーム神奈川があったからこそ今回の結果です。

自分が飛躍し、それがまた誰かの刺激になり、仲間と共にこれからも切磋琢磨し合いながらお互いを高めて行けたらいいなと心の底から強く思いました。

応援され、みんなから好かれ、また人の心を動かし、感動を与えられる。そんな選手を目指してこれからも自分の目標に向かって前を向いて精進していきます。



少年女子B 100 m、4 × 100 m 望月 美希（横浜市立茅ヶ崎中学校3年）

10月13日から17日まで鹿児島県で行われていた特別国民体育大会において少年女子B100mで4位入賞することが出来ました。予選、準決勝では追い風参考ながら目標であった11秒台を出すことができ、決勝では自己ベストを上回る12.03を出すことが出来ました。この結果で満足せず高校では全国制覇を目標に日々練習に励んでいきたいです。



少年女子共通走高跳 鴨田 るな（相模原市立旭中学校3年）

入賞することが目標ではありましたが、やっぱり悔しかったし満足はできませんでした。中学3年になってから公式の大会では負けたことがなかったので、入賞を目標にしてもせめて記録は出したかったと思います。

国体に中学生で出場させてもらったことは本当に感謝しています。神奈川のトップ選手が集まった“チーム神奈川”の雰囲気は、今までで感じたことがないものでした。自分より年長の選手が私に対して十分に気遣ってくれた分、私も何とか貢献したいと思っていました。現地入りしてから、自分の出場機会まで何日もある中、調整する難しさなど、今まで経験したことがないことを多く経験できましたので、また“チーム神奈川”の一員になって、今度はチームに貢献できるように、強い選手になって戻ってきたいです。

私には一生忘れることのないくらい、楽しく充実した国体出場の経験になりました。ありがとうございました。



女子共通 4 × 100 m 佐藤 瑠歩（法政大学3年）

この度、「特別国民体育大会（鹿児島国体）」に出場させて頂き、成年少年女子共通 4 × 100mR で 7 位入賞という結果を残すことが出来ました。

私が国体に出場するのは 5 年ぶりのことであり、神奈川県選手団に選出して頂けたこと自体、本当に嬉しく思っています。私は長らくスランプに陥っており、初めて国体を選んで頂いた高校 1 年時以来自己ベストを更新することが出来ていませんでした。国体出場どころか走る事自体嫌な時期もありましたが、それでも「諦めない！」と、全国トップクラスの選手が集まる現在の大学に進学し、必死に練習しました。監督・OBOG・トレーナー等、様々な方の意見を取り入れる事でスランプの原因や改善点を発見することが出来、遂に去年、5 年ぶりに自己ベストを更新することが出来ました。そして今回、国体選手に選んで頂き、5 年前は成し遂げることが出来なかった入賞することでこれまでの自分を大きく越えられたと実感しました。

再びこの神奈川県選手団の一員として大きな声援と多大なサポートのもと走ることが出来、とても幸せです。また来年、神奈川県選手団として国体に出場出来るように日々精進して参ります。

女子共通 4 × 100 m 石川 優（青山学院大学3年）

今回、初めて国民体育大会に出場させて頂きました。神奈川県に少しでも貢献ができたことを嬉しく思います。私は、4 × 100mR の 4 走として走らせて頂きました。怪我をしていたため、不安のある中でのレースとなりましたが、神奈川県代表として選んで頂いたからには何か結果を残して帰ると大会が始まる前から決めていました。準決勝のレース前に怪我が悪化し、正直走るかどうか迷いましたが、私ができることはチーム神奈川を決勝の舞台までコマを進めることではないかと思ったので、準決勝を走ると決め、自分が出せる力を全て出し切り、決勝へと進むことができました。準決勝後は、怪我がさらに悪化し、決勝を走ることが困難になってしまったので他のメンバーにバトンタッチをしましたが、私が鹿児島まで来た結果を果たすことができたのではないかと思ったので悔いはありません。初めての国民体育大会は、様々な思いが重なった試合となりましたが、チーム神奈川の皆さんのおかげで楽しく終えることができました。

沢山の応援ありがとうございました。これからも引き続き頑張っていきます。

男女共通 4 × 400 m 金子ひとみ（青山学院大学4年）

私は、初めて国民体育大会に選んでいただきました。個人種目の 300m では、初めての国体で緊張してしまい、上手くレースの流れに乗ることができず、予選落ちという悔しい結果になってしまいました。マイルでは、チーム神奈川に貢献しようという気持ちが強くなりました。マイルの予選では、前半いつもより速く走ってしまい、後半うまくペースを上げられませんでした。チームも大会新記録だったので、決勝ではもっと良い走りしようという気持ちになりました。決勝では、大学で同じチームメイトと同じ走順で負けられないという思いがありました。苦手な前半で先頭に離されないようにすることを意識して、後半追い上げられるイメージで走りました。3 位が表示された時はとても嬉しかったです。神奈川県スタッフやチームメイトのサポートのおかげでこの結果が出たと思います。陸上人生最後の公式戦が国民体育大会でよかったです。

◎都市陸協だより（第 17 回 座間市陸上競技協会）

< 座間市陸上競技協会について >

本市は東京から南西へ 40 キロメートル圏内、横浜から西へ 20 キロメートルのところであり、起伏に富んだ地形を構成している。神奈川県ほぼ中央に位置し、面積 17.57 平方キロメートル（県内 25 番目）人口 13 万 2000 人（県内 14 番目）の市である。

昭和 23 年座間市（当時座間町）は相模原町（現相模原市）より分離独立し、昭和 27 年高座郡体育協会が発足し、昭和 29 年に座間町体育協会（現スポーツ協会）が組織され、陸上競技協会が誕生した。当時の選手層は薄く、また公認の審判員も少なかった。そのため運動会の延長的な考え方の市民が多く、自分自身の体力の向上、記録の樹立などの考え方を持っていなかった。

昭和 30 年に座間、海老名、綾瀬、寒川、渋谷（現大和市）の町村で組織を作り高座一周駅伝競走大会が開催された。その後行政改革に伴い 18 回でこの大会は幕を下ろした。昭和 48 年より 3 市 1 町（座間市・海老名市・綾瀬市・寒川町）は高座という名称のまま高座一周駅伝として行ってきました。交通事情等により平成 15 年 31 回大会を最後に終了した。

市町村対抗かながわ駅伝協大会には昭和 48 年第 27 回大会より座間市単独チームとなり現在まで連続して出場している。最高順位は平成 25 年の 67 回大会の 8 位であり、これ以降 8 位を上回ることは残念ながらできていない。

市の大会である、座間市陸上競技選手権大会、座間市総合体育大会は、大和市陸上競技協会の協力を得て、大和市スポーツセンターで共同開催をしている。座間市ロードレース記録会・大会は公道の使用ができなくなり座間日産事業所内を借用して毎年開催している。

このように協力いただいている大和市陸上競技協会や日産座間事業所には大変感謝する所である。

市内で大会等を開催する施設や場所がない中で、本市陸上競技協会は陸上競技の推進発展のために協力して活動をしています。県下でも陸協登録者数は少ない協会ですが、可能な限り県陸協にも協力して、本市の協会および陸上を愛するの方々のために尽力していきたいと思っております。

文責：座間市陸上競技協会会長 赤羽 孝秀

※次回の「都市陸協だより」は海老名市陸上競技協会をお願いします。